

～デジタル化は目的ではなく手段～ 地域の絆をデジタルで強化

P T A 活動や自治公民館運営の負担軽減と持続可能な地域活動を目指し、市では令和6年度に「地域コミュニティデジタル化事業」を実施しました。本事業の中から、今回は有水小学校と麓自治公民館（中郷地区）の取り組みを紹介します。

◎問い合わせ 【P T Aに関すること】生涯学習課 ☎ 23-9545
【自治公民館に関すること】地域振興課 ☎ 23-7146



市内では、地域の課題解決や活性化のため、住民自ら考え行動する住民主体の地域づくりが広がり、各地で意欲的な取り組みが行われています。今回は、祝吉地区の取り組みを中心に紹介します。



有水小学校では、LINEとつながるビジネスチャットにより、P T A 運営の効率化を実現しています。P T A 活動に関する各種打ち合わせがグループトークでできるため意思決定が迅速化。また、従来はP T A 役員が電話や来校で行っていた文書の確認作業などがオンラインで完結し、負担軽減につながりました。

Case1 有水小学校

活動内容の負担の大きさが、地域団体の加入率低下の一因となっている現状を踏まえ、デジタル技術を活用して課題を解決し、効率的な地域活動のモデルケースを作ることを目指した本事業。P T A や自治公民館の現状調査から改善案の検討を地域と共に進めてきました。

課題解決に挑戦



活気あふれる！ 地域活性化の取り組み

市内では、地域の課題解決や活性化のため、住民自ら考え行動する住民主体の地域づくりが広がり、各地で意欲的な取り組みが行われています。今回は、祝吉地区の取り組みを中心に紹介します。

◎問い合わせ 地域振興課

☎ 23-7146

地域の課題を地域で解決

本市では、協働のまちづくりの拠点として、各地区にまちづくり協議会を設置。さらに、地域の課題を地域の力で解決する取り組みを支援するため、平成25年度から都市地域活性化事業を展開しています。

地域活性化事業は、まちづくり協議会だけでなく地域住民などで構成される団体が提案できます。

※詳しくは、市ホームページを確認ください



みんなの食卓心つながり祝吉の輪「スマイルカフェ祝吉事業」

祝吉地区では、自治公民館や福祉施設、N P O 法人などが連携してスマイルカフェ祝吉を運営し、多世代交流の場となっています。

今回は、同事業を実施している祝吉地区社会福祉協議会の桑山会長と小堀事務局長に話を聞きました。

事業のきっかけは

桑山 当初は、さまざまな理由で孤立している子どもたちの「つながり」「触れ合い」「新しい出会い」のきっかけづくりを目的に平成30年からスタートしました。現在では高齢者の皆さんも参加され、地域の絆を深める大切な場となっています。

事業の内容は

小堀 毎月1回、主に第3土曜日に開催しています。流しそうめんなど季節に応じた会食を企画し、子どもから高齢者まで地域の多世代交流の場となっています。

また、参加者の過度な負担にならないよう、一家族当たり100円の負担で参加いただいています。

印象に残っていることは

小堀 事業を開始してすぐに新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面での食事ができなくなりました。し

Case2 麓自治公民館

麓自治公民館では、「LINE公式アカウント」と「デジタルサイト（ホームページ）」を併用した効率的な情報発信を実施。イベント告知や緊急連絡など今伝えたい情報はLINEで即時に配信、公民館報のアーカイブや活動報告など必要ときに見返したい情報はホームページで閲覧できるようにすることで、情報の種類や目的に合わせた発信を実現しています。

「LINE公式アカウント」

閲覧板やイベント告知など、タイムリーな情報発信に活用。



「デジタルサイトホームページ」

イベントの報告や公民館報アーカイブ、プライバシーポリシーの掲載などに活用。



デジタル化がもたらした変化

- 情報伝達の即時性向上
⇒ 連絡がリアルタイムで可能
- 若い世代の参画促進
⇒ スマホで情報確認、参加表明が可能
- 役員の負担軽減
⇒ ペーパーレス化、問い合わせの減少
- 引継ぎの円滑化 ⇒ 活動記録の蓄積と継承 など

※各事業の成果など詳しくは、市ホームページを確認ください



PTA



自治公民館

地域の絆が深まりました！

副館長である父の提案がきっかけでLINE公式アカウントを作成しました。現在は地区の約7割が登録し、即時の情報発信が可能になりました。若い世代の参加も増え、地域が活性化していると感じています。



麓自治公民館 SNS担当
稲森 陽香さん



祝吉地区社会福祉協議会

事務局長
小堀 博子さん

会長 ひでひさ
桑山 英久さん

かし、つながりを絶やさないことが重要だと考え、弁当配布に切り替えるなど工夫して事業を継続。対面での会食が再開できるようになったときの、子どもたちが抱き合って喜ぶ姿が今でも印象に残っています。

今後に向けての思いは
桑山 令和6年度には延べ428人に参加いただき、活動の広がりを実感しています。今後も地域の多様な世代が集える場所として、多くの人に参加いただけるよう努めていきます。特に子どもたちと高齢者の自然な交流を大切にしながら、地域共生社会の実現に向けて、参加者とボランティアが互いに心から楽しめる工夫をしていきたいと思っています。